

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 藤木 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

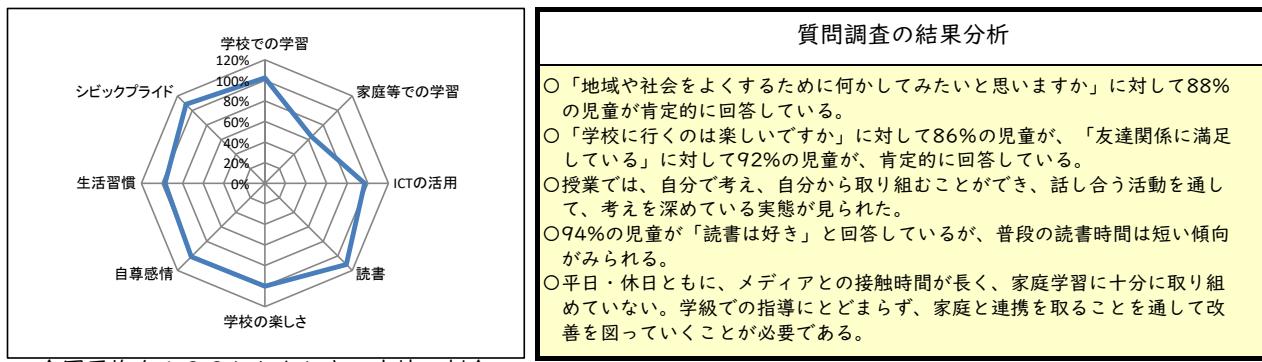
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	基本的な知識の定着はみられる。それをもとに要旨を把握したり、情報を収集したりして考えを深めることに課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	漢字や語句などの基本的な知識・理解を求められた問題。	
	努力が必要な問題	聞く・話す領域において、意図に応じて、相手の話の内容をとらえる問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	公式をあてはめたり、計算をしたりすることは定着できている。問題文を途中まで読んで、把握が十分にできないまま、じっくりと考えることができない傾向がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	五角形を基本图形に分割し、面積を求める方法を式や言葉で記述する問題。	
	努力が必要な問題	10%増量した内容量を、増量前の何倍かを選ぶ問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	既習事項とつなぎ、実験や観察の結果から考察することはできている。実施手順や性質などの知識の定着が十分にできていない傾向がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	水の蒸発について、水の状態変化の知識と関連付け、概念的に理解していることを尋ねる問題。	
	努力が必要な問題	花粉の観察のため、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

最後まで問題文に集中して読んでから、課題を正しく把握するよう、「聞く力」のトレーニングを毎週火曜日の「チャレンジタイム」で継続する。話し合いを通した「? (はてな)」と「! (びっくり)」のある授業づくりを行い、思考力を深めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習強化週間を継続し、「家庭学習カード」にて自己評価するとともに、家庭との連携強化に努める。自主学習を奨励し、良い取組を積極的に紹介するとともに、中学生の取組も掲示して意識を高める。